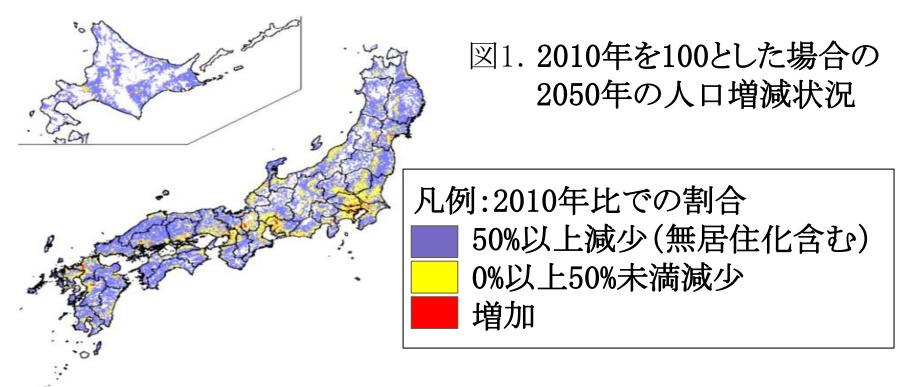
農業で 大きな「夢」を もう一度

一橋大学 岡本ゼミA班 小池一輝 富田真由子 渡辺雪乃

CONTENTS 目次

- 1 問題意識
- 2 現状
- 3 モデルの探索
- 4 提言
- 5 まとめ

何を表しているでしょうか?



【参考:内閣府「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」】

1

問題意識



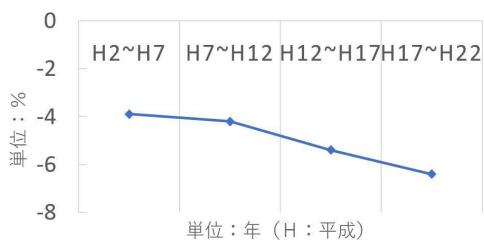
図2:過疎地域の高齢者比率



(総務省「過疎対策の現況」から作成)

高齢者比率の増加

図3:過疎地域の人口減少比率



(総務省「過疎対策の現況」から作成)

過疎地の人口減少

過疎化解決方法

地域活性化イベント

? 一過性



)持続性

若者に定住してもらいたい



定住してもらうには『職』が必要



地方の資源を活かせる『職』とは...



まとめると...

若者が地方で 農業をする



過疎地域に定住



過疎化解決

この流れを作りたい!!

現状

【過疎化対策】

国や地方自治体はどのような 過疎化対策をしてきたのだろうか?

<国の過疎化対策>

過疎地域自立促進特別措置法(平成12年~)

- ・ 過疎地域のインフラに対する補助金
- •地方債発行
- ・その他金融、税制の支援

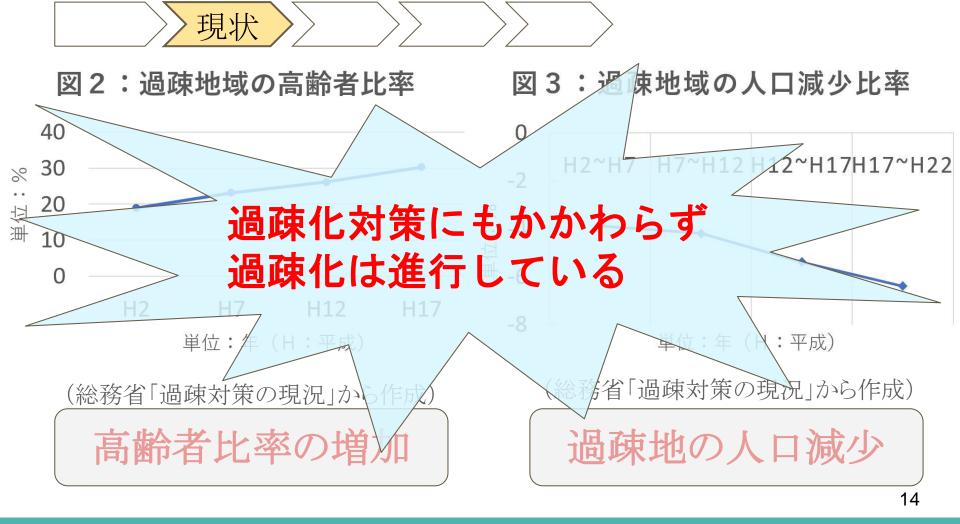
参考:総務省「過疎地域自立促進特別措置法概要」

<地方自治体の過疎化対策>

様々な取り組みをしている地方自治体

- ・冬季観光誘客による地方創生プロジェクト(北海道東川町)
- ・学生の地方への就職意欲を高める支援(福井県)
- ・サテライトオフィスプロジェクトによる定住促進(徳島県神山町)

参考:内閣府地方創生推進事務局「地方創生事例集」



先進事例

3

モデルの探索 【先進事例の考察】

- (1) 高知ファイティングドッグス
 - ~プロ野球チーム×農業~
- (2)河野博文さん
 - ~セカンドキャリアとしての農業~

先進事例(1)

四国アイランドリーグPLUS

野球界の底辺拡大と選手の育成



地域の活性化と地域貢献、地域における人材育成

四国アイランドリーグPLUS

=四国4県を活動地域とするプロ野球独立リーグ



【四国アイランドリーグPLUS 年表】

『四国アイランドリーグ』開幕 2005

2012以降

長崎・福岡が加わり、『四国・九州アイランドリーグ』に名称変更 2008

2010

福岡•宮崎「準加盟球団」/岡山•熊本「準備室開設段階球団」

長崎がリーグから撤退/三重がリーグに参加

『四国アイランドリーグPLUS』に名称変更 2011

三重がリーグから撤退

四国4球団でリーグトーナメントを毎年開催

先進事例(1)

四国アイランドリーグPLUSの課題:

経営難 1800万円の赤字 選手の給料月10-40万円オフは0円

セカンドキャリア 「引退後が不安」 71.5%

日本野球機構「セカンドキャリアに関する意識調査」(2012)より



スポーツ選手

農業





セカンドキャリアで 農業を営む 元プロスポーツ選手

お会いしてきました!

_{名前:}河野博文

経歴:元プロ野球選手

(巨人、日ハム、ロッテ)



現たまねぎ農家



1984年ドラフト1位指名 1988年最優秀防御率 1996年最優秀中継ぎ投手 通算54勝

先進事例(2)

インタビュー結果

2000年引退後 群馬の玉ねぎ農家で 2年間修業

農地の確保 貸し渋りにより苦労



現役農家の助言で 法人化し 農地の確保に成功

農地経営(3000坪) 居酒屋「げんちゃん」 野球教室

4 提言

【スポーツ×農業=明るい未来】

【定義】高知ファイティングドックスのような



業:野球練習



副)業:農業



農業チーム



と名付ける

【大きな『夢』へのステップ】

Step 1 既存リーグに『農業チーム』を加える

高知FDの 成功事例 にのっとり



(野球:四国アイランドリーグPLUS·BCリーグ)

Step 2 既存リーグを拡大



Step 3 全国に『農業リーグ』を展開



(農業リーグ……農業チームの集うリーグ)

Step 4 他のスポーツへ波及



『最初の一歩』として…



『アグリカル岡山』



業:野球練習

業:農業



シーズン中:営農法の講習会シーズンオフ:農業従事者として雇用

副業:農業

なぜ野球選手が農業をやるのか?





(ii)セカンドキャリアの選択肢に→引退後も<u>定住</u>

(☆普通、現役中に引退後のことは考えない)

『アグリカル岡山』



スポーツチーム × 農業法人

『アグリカル岡山』の詳細

- ①本拠地: 岡山県矢掛町
- ② 四国アイランドリーグPLUS に参加
- ③1チーム 30人
- ④アドバイザーは 引退後農業を営む元プロ野球選手
- ⑤ 農地経営責任者 を雇う

①本拠地:岡山県矢掛町

人口:15092人(65歳以上5045人)

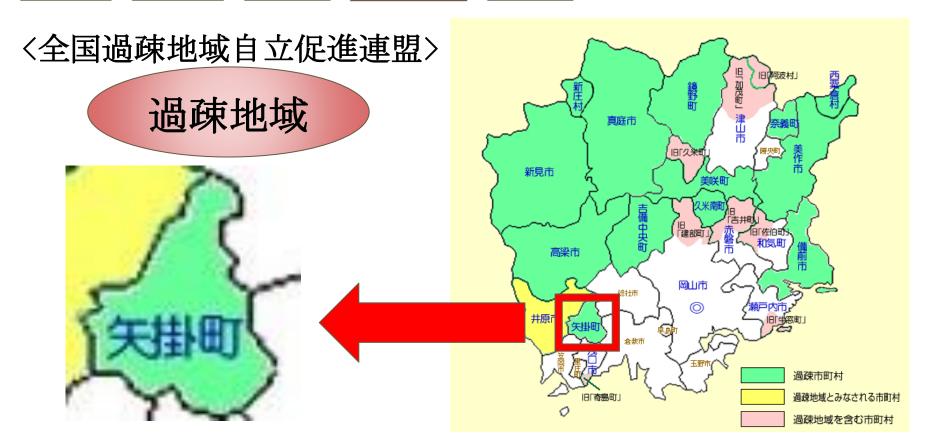
高齢化率:33.4% ⇔ 全国平均23.0%

高齡化

人口密度:169.9人/km²⇔全国平均343人/km²

過疎気味

(参考:岡山県矢掛町ホームページ)※数値は平成22年度の値



提言〉〉

①本拠地:岡山県矢掛町

〈新規就農支援+移住計画〉

~ちょうどいい!!田舎暮らし!!~

『オーダーメイド型就農支援』



新規就農に力を入れている町





【なぜ岡山県矢掛町に着目するのか?】

- (i) 隣県チームの参入の実績
- (ii) リーグ近隣 (矢掛~四国:車で約1時間)
- (ⅲ) 過疎地域
- (iv) 就農支援制度充実



②四国アイランドリーグPLUSに参加

アグリカル岡山はあくまで"モデルチーム"

次のステップでは……

これが最終目標ではない!!!

農村リーグ

なるものを作りたい(例:BCリーグ)



『過疎化の解決に大きく貢献』

③1チーム30人

なぜ30人?

四国アイランドリーグPLUS

高知FD…30人 徳島IS…32人

愛媛MP…29人 香川OG…27人

→平均30人前後

提言

④アドバイザー

= "引退後セカンドキャリアで農業営む元プロ野球選手"

『アグリカル岡山』=

農業法人

X

スポーツチーム





『農地経営の苦労がわかる + 選手の苦労もわかる』

【モデル:河野博文さん】



運営



資金

【費用】四国アイランドリーグPLUSの1チームあたりの運営費

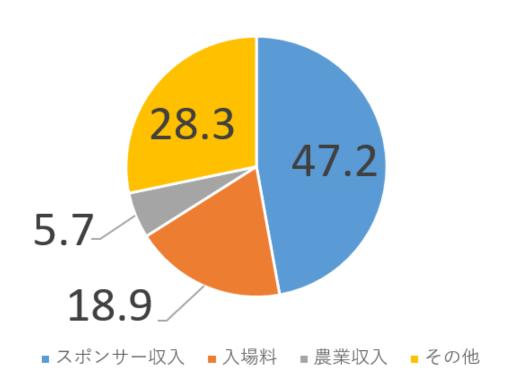
〈約1億5000万円〉



【収入】…スポンサー収入、入場料、放映権料、物販等

提言

高知ファイティングドックス収入内訳







過疎地域



農地中間管理機構

<農地中間管理機構とは>



参考:農林水産省「農地中間管理機構とは」

<農地中間管理機構の特徴>

個人

供給不足 →土地を借りづらい

法人

大規模に扱う法人を優先 →土地を借りやすい 〉〉提言〉〉

<農地中間管理機構の役割>

農地中間管理機構



定住者を増やしたい自治体

<サポート内容>

農地中間管理機構が自治体にするサポートの例

『農業法人としてのスポーツチーム』に

農地を貸す

『セカンドキャリアと して農業を始める 元スポーツ選手』に

農地を貸す

地域連携推進員による

営農法の指導

※地域連携推進員:リタイアした農業者などが経営・技術指導等の支援をする制度

5 まとめ

【明るい未来に向けて】

<提言による効果>

選手

● 安定した給料

● セカンドキャリアのビジョン→スポーツに集中

チーム

● チームの運営資金の確保

● 地域密着の推進

地域

● 若者の増加

● 定住促進

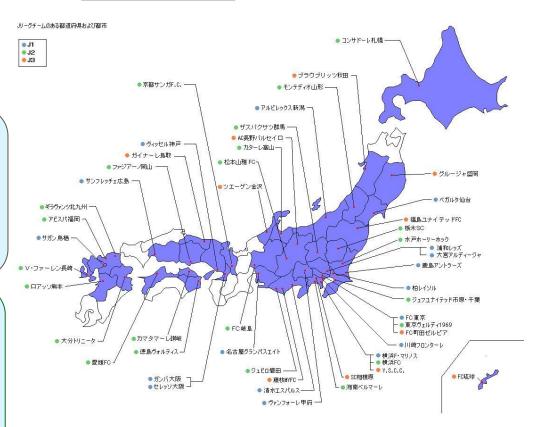
<他のスポーツへの波及>

例①:Jリーグ(サッカー)

J1~J3合わせて 54チーム

このうち三大都市圏外のチーム

38チーム70%



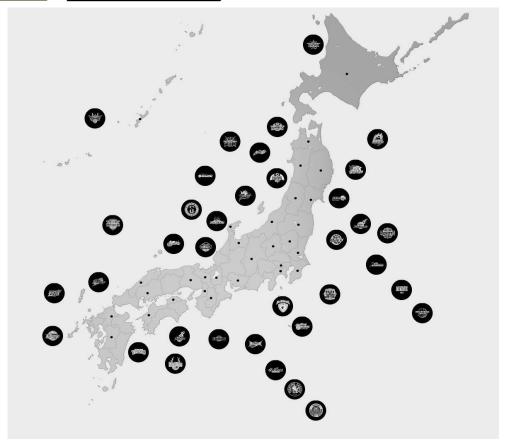
<他のスポーツへの波及>

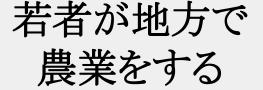
例②:Bリーグ(バスケ)

B1, B2合わせて 36チーム

このうち三大都市圏外のチーム

27チーム75%







過疎地域に定住



過疎化解決

この流れが実現する!!

参考文献

農林水産省「農地中間管理機構の制度や実績」〈http://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/kikou/index.html〉 総務省「平成26年度版 過疎対策の現況」〈http://www.soumu.go.jp/main_content/000392823.pdf〉 高知新聞〈http://www.kochinews.co.jp/article/108024〉 日本野球機構「現役若手プロ野球選手 セカンドキャリアに関するアンケート」〈http://npb.jp/npb/careersupport2012enq.pdf〉 Jリーグチームマップ〈http://masake.web.fc2.com/football/j_map.html〉 BリーグHP〈https://www.bleague.jp/club/〉



で清聴ありがとうございました

